



No.15

柏市政や柏市の出来事についてご報告します。

ボランティア募集!

# 山下洋輔新聞

柏市議

無所属

37歳

山下洋輔は、クリーンな政治を目指しています。皆様のお力が必要です。この新聞を配布して下さる方を募集しています。散歩がてら、ご近所だけなど、何枚でもかまいません。地域をよりよくするため、一緒に活動しましょう。

2015年5月15日

市議会議員は、どんな活動をしているか。どのような考えで、活動しているか。報告していきます。

## ○ 誰もが安心して歩ける柏駅前 - 歩行者優先とバリアフリー

(整備イメージ)



ハウディモール(柏駅前通り)が、平日も歩行者天国になります。段差もなくなり、ベビーカーや車いすも通行しやすくなり、木陰のベンチで一休みもできます。

歩行者優先のまちづくりは世界の潮流です。ニューヨーク、コペンハーゲン、ミュンヘンなどでは自家用車を締め出し、人間のためのストリートが生まれています。

歩きたくなる街になれば、商業の活性化だけでなく、医療費も減ります。インターネットではなく、街では生きた経験が得られ、文化が生まれます。

バス・タクシーや運搬の車の扱い、自転車の通行など、まだまだ課題はありますが、街と行政が一体となった取組みが注目されています。公共交通の整備や電柱の地中化だけでなく、一方通行や車両制限など、不便になることも検討しなければなりません。市民が関心を持って、話し合いに参加することで、より良い街に育っていくのだと思います。

図 ハウディモールが、この絵のように。 「柏駅周辺まちづくり10カ年計画」より

## ○ 認知症と家族の介護 - ケアラーズ・カフェを視察

2025年には、認知症の高齢者が約700万人と推計される中、認知症への理解者を増やし、認知症にやさしい地域づくりが求められています。国は、医療費削減の考えもあり、病院の長期の入院や老人福祉施設ではなく、在宅介護を目指しています。柏市でも、豊四季台団地などでは、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが一体となった地域包括ケアシステムに取り組んできました。

しかし、家族介護者への負担の軽減や仕事と介護の両立が課題となっています。このような中、ケアラー(介護者)の心労や肉体的負担への支援の必要性を強く感じ、介護者や地域の生活者が集える場所、息抜きする場所が注目を集めています。柏市内の「ケアラーズカフェ・息抜き処 みちくさ亭」を視察しました。若者の家族介護者の課題もお聞きし、議会で質問しました。

### 山下洋輔のプロフィール 1978年4月生まれ。37歳。

東葛飾高校卒業。早稲田大学教育学部卒。同大学院修士課程修了後、土浦日大高校にて教諭。早稲田大学大学院教育学研究科博士課程を単位取得後退学。

「柏まちなかカレッジ」学長として市民大学を主宰し、地域の教育・文化を盛り上げている。

【趣味・特技】歴史散策、剣道(三段)、絵画、カポエイラ、三線、バイク、JAZZ鑑賞

【家族】妻、長男(2014年生まれ)

※タイトルのイラストは、『ひとりごはんの背中』(講談社)で著者の能町みね子さんの取材を受け、描いて頂いたものを使用しています。

柏まちづくり倶楽部開催(毎月最終木曜日19時~)

参加ご希望の方は、ご連絡ください。連絡先は裏面に記載しています。

# ○ 山下洋輔、3月議会での質問。

	山下の質問	柏市の答弁
教育	<b>山下の視点</b> 財務や総務に詳しい事務職員の養成に力を入れることで、学校運営をスムーズに進め、教員の負担軽減につながります。	学校事務職員の養成を。 研修や学校間の連携で、学校事務機能の強化に努める。
	<b>山下の視点</b> 人口減少で、公共施設の効率化も求められる中、学校を、生涯学習や福祉施設と一体化し、地域住民の拠点として活用すべきです。	高齢者は小学生から元気もらい、小学生は高齢者から経験を学ぶ。 空き教室や地域のニーズを判断しながら、協議したい。
子育て	<b>山下の視点</b> 現状の制度では支援を届けることができない親にこそ、支援が必要な場合が多い。2度と悲惨な事件が起こらぬよう全力を尽くす。	妊娠から、出産、子育て、就労とワンストップでのサービスができる相談機関の設置を。 切れ目ない支援を検討する。
	<b>山下の視点</b> 児童虐待は個々の家庭の問題ばかりではなく、社会全体の問題。その発見もまた地域社会の目にかかっています。	議会からも「児童虐待・いじめ防止条例」が出されたが、その後の取り組み状況は。 情報共有システムの導入や関係機関との連携強化を行った。
	<b>山下の視点</b> 親元を離れ、出て行った子育て世帯を市内に呼び戻す政策です。空き家を活用し、親世代の孤独死を防ぐというねらいもあります。	子育て世帯と祖父母世帯が近くに住み助け合う「近居」を後押しすることについての見解は。 有効な手段であると認識している。
	<b>山下の視点</b> 柏の魅力の一つは、都内まで電車で30分の位置で、豊かな自然があること。特に、手賀沼は大きな可能性があります。手賀沼周辺で、都市と農村との交流拠点を整備に取り組むべきです。観光振興、地域の環境保全、市民の健康増進の効果も期待できます。	手賀沼周辺全体を公園と見立て、風景を楽しみながら歩く小径『フットパス』の整備を。 市民団体の提言をもとに、農家や商店と協力し、展開する。
文化	<b>山下の視点</b> 沼南公民館について。公民館は、地域への愛着を深め、地域課題を浮き彫りにし、解決に取り組む経験を通して学び、これから地域で活動する人材を発掘する生涯学習の象徴となる施設です。	市政運営における生涯学習の位置づけは。 近隣センターとなっても、生涯学習課が事業を継承し、今以上の利用が進むようにする。
	<b>山下の視点</b> 中央図書館や分館も老朽化しています。今後の図書館の方針を明確にすべきです。	第五次総合計画での図書館の位置づけと公共施設等総合管理計画での図書館分館の方針は。 学習・子育て支援の充実と市民の課題解決支援の情報拠点と位置づける。分館のあり方を見直し、特色ある分館にする。
経済	<b>山下の視点</b> これまでの地方活性化策を検証した上で、今回は取り組まなければ過去の過ちを繰り返すことになりかねません。	なぜプレミアム商品券だったのか。 国の指針に従った。
	<b>山下の視点</b> 国は地方創生予算を活用し、エネルギーを地産地消し、市内にお金だけでなく雇用も生み出せます。	前回の反省をどのように生かすか。今回の効果検証の方法は。 事業終了後も消費効果を継続できるように。アンケートで検証。
	<b>山下の視点</b> 再生可能エネルギーの開発と地元運営を推進しては。	国の動きを注視し、経済産業部と連携して取り組みたい。
介護	<b>山下の視点</b> 「誰もが、その人らしく、住み慣れた地域」で暮らせるため、家族介護者が孤立しないような支援が重要です。	家族介護者の負担軽減や孤立を防ぐ交流の場を。 ケアラーズカフェなど、介護者のための支援もしていく。
	<b>山下の視点</b> 十代の家族介護者の実態を、行政は把握できていない。若い介護者への支援を。	相談機能を強化していく。

## ○ プレミアム商品券と地方創生

地方創生のための国の予算を使って、柏市では、消費喚起を目的としたプレミアム商品券(1万円で13,000円分の商品券)を発行します。商品券を購入するには事前に申し込みが必要です(5/31まで)。子育て世帯には子育て生活応援券を配付します。 ※詳しくはHPをご参照下さい。電話は7139-4040

これまで地方活性化のために、様々な政策が講じられてきましたが、地方自治体には厳しい状況が続いています。これまでの地方活性化策を検証し、今回は取り組まなければ過去の過ちを繰り返すことになりかねません。平成21年の商品券の反省を生かし、地域にお金が循環させ、商品券の効果を検証していくよう、議会で質問しました。

### 山下から一言

旧水戸街道沿いの歩きにくい歩道も、バリアフリー化に向け、整備されます(千葉銀行～アミュゼ柏)。柏駅前が、歩行者優先の街になり、魅力あふれる街になるよう、議会からも働きかけていきます。

**連絡先** TEL:04-7170-0668 FAX:03-6745-9416(※eFaxを使用) Mail: info@y-yamasita.com

以下、山下の活動や考えたことを報告しています。山下の日常の記録です。ご感想やご意見もお寄せ下さい。

[twitter] @yosukekeyama [facebook] http://facebook.com/yosukekeyama [HP] http://y-yamasita.com